

# 「会計かるた」による学習者と教授者の意識の相違の分析

柴 健 次  
鎌 田 啓 貴

はじめに

本研究は会計リテラシーを研究する研究の議論から生まれた<sup>1)</sup>。今回は大人として知っていてほしい内容を「かるた」に読み込んだ。その「かるた」を各方面に示したところ、商業高校などの協力を得ることができた。企画内容の不完全性に悩みつつも、回答に対峙してみると、回答が語る「事実」に謙虚に向き合う必要を感じた。

「会計かるた」には文言の差はあれ、会計に関する思いが語られている。我々は被験者に対して二つのことを問いかけた。第1は、会計かるたの文章の内容がイメージできるかを問うものである<sup>2)</sup>。第2は、それら文章に対し、追加的説明を求めるかを問うものである<sup>3)</sup>。単純な二つの質問にすぎないが、それでも学習者と教授者との間に意識の相違があったり、高校間でも相違があったりした。

本稿は会計リテラシー研究に追加的な知見を提供することを目的としている。

## 1 調査の方法

別紙として収録した会計かるた【大人編】とそれに対する質問用紙を3つの高校と関西大学で生徒・学生・教員に配布し、それぞれ回答を得た。ただし1つの高校ではアンケートの記入環境に問題があったのか回答内容に疑義があったので、同校からの回答は集計に含めなかった。また高校は商業高校3年生を対象としたので会計については一定の知識を有している。一方、大学は簿記会計を専門科目としない学部生を対象としたクラスの学生である。したがって、今

---

1) 日本公認会計士協会に設置された会計基礎教育推進会議の場で、会計リテラシーの普及には「かるた」が有効かもしれないという話題になったことに始まる。子供向けのかるたの作成には時間を要するので、柴がまずは「大人向け」のかるたを試作してみた。

2) 「これらのうち、イメージがわいたものがあれば、「あ」から「ん」の文字を○で囲んでください。」

3) 「これらのうち、詳しく聞きたいと思うものがあれば、「あ」から「ん」の文字を○で囲んでください。」

回の調査に関しては高校生の方が専門知識を有している集団である。その大学生集団の回答については、簿記会計を学ぶ意志があるか否か不明であるため、今回の調査では全体集計を取る際には対象としたが、高校との比較は難しそうなので見送った。いずれ比較対象となる初学者の回答が得られれば比較可能となる。

この調査での回答数は採用しなかった回答を除いて496件であった。高校に依頼して実施していただいたので配布数は不明であるので、回収率は算定できない。内訳は高校生が339件（協力いただいたO校が301件、K校が38件であった）、大学生が112件、そして教員（すべて高校教員）が45件（O校25件、K校20件）であった。質問1と質問2の回答にあたっては回答数に制限を加えていない。一方、回答数を必ず5個とか指定する方がよかったかどうか反省点もあるが、自発的に何個の文章に○をつけたかも分析対象になった。

質問1と質問2の属性ごとの回答数は本稿末尾に収録してある。それぞれの総回答数を分母として比率を算出し、その比率を用いて属性間比較を行った。各文章の回答率は算定すれば出てくるので、紙幅の関係で掲載を省略した。

質問ごとに基本統計を示しておく。ただし、回答が連続する数値ではないので平均値等に意味があるわけではない。

質問1の回答数

	高校生	大学生	教員	全体
平均値	7.6	8.6	11.9	8.3
標準偏差	7.6	7.9	11.7	5.2
中央値	5	7	8	5
最頻値	1	1	1	1
最大値	41	42	40	42
最小値	0	1	0	0
標本数	339	112	45	496

高校生、大学生、教員の回答数の平均値と中央値は、ともに教員>大学生>高校生となっている。会計かるたに書かれた文章につきイメージできるものを答えよという質問であるが、年齢を重ねた経験の差がイメージできる文章の数に繋がっているものと考えられる。

## 質問2の回答数

	高校生	大学生	教員	全体
平均値	4.5	6.7	5.0	5.1
標準偏差	5.4	6.8	4.5	5.7
中央値	3	4	4	3
最頻値	1	3	1	1
最大値	46	34	16	46
最小値	0	0	0	0
標本数	339	112	45	496

質問2は会計かるたの文章について追加的な説明を望むか否かを問うたものである。高校生、大学生、教員の回答数の平均値は4.54、6.67、4.98となり、中央値は3、4、4となっている。会計についての知識量から言うと、教員>高校生>大学生となる。大学生は専門学部以外の学部に属しているので、これから簿記会計を学ぶかどうか分からない集団である。そこで、知識量の順に並べ替えると、平均値は、4.98、4.54、6.67となり、中央値は4、3、4となる。

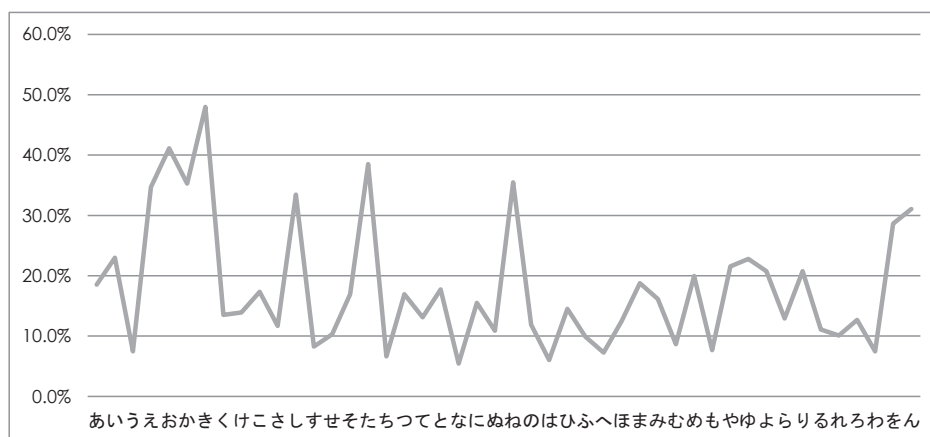
## 2 質問1の分析

本節では、質問1の回答の単純集計の結果につき分析を行う。

## (1) 回答全体の特徴

図表1は個々の文章（の記号）「あ」から「ん」までの回答頻度を示す。折れ線で書く意味はないが、棒グラフより視覚に訴えるのではないかと考えて採用した。

図表1 質問1で会計かるたの文章ごとに見た回答の頻度



しかしグラフではわかりにくいので回答数の多かった文章（の記号）と回答数の少なかった文章（の記号）を列挙してみる。図表2は回答数の多かったもの、図表3は回答数の少なかったものを示す。

図表2 質問1で回答数の多かった文章（の記号）

- 【き】 記憶に限界あり、だから記録が重要になるのです。
- 【お】 お寿司屋さん、気になるな、時価っていくらなの。
- 【た】 単なるデータといわれるが、データの時代だよ。
- 【ね】 ネットにデータを蓄積する現代、オープンすぎませんか。
- 【か】 借方の向こうに借手、貸方の向こうに貸手がいるんだよ。
- 【え】 エーアイが辛い仕事をしてくれるって夢なのかな。
- 【し】 事実を記録するといずれ記録が事実になります。
- 【ん】 ん、うん、精算表の2つの利益が合えば大満足なんだよ。
- 【を】 をっと大変、貸借合わない、アンバランスシートだよ。
- 【い】 イタリアで複式簿記が生まれたってほんとに本当なの。

回答数の多かった文章（の記号）（以下、くどいので単に文章という）は、高校生の場合には簿記検定試験を通じて会計用語を知っているだろうし、未修者（大学生）も一般用語として使われる用語が含まれることからイメージしやすかったのかと推測する。ただし、「を」と「ん」が含まれていることから、会計に関してある程度の知識を持った者の回答が多かったのではないかと推測される。

以上とは対照的に、回答数が少なかった10個の文章を集めたのが図表3である。

図表3 質問1で回答数の少なかった文章（の記号）

- 【な】 なかまで見える井で危機意識を高めるどんぶり勘定。
- 【は】 破壊的イノベーションをどう会計で表現しようか。
- 【ち】 抽象的な維持拘束額を資本という会計学者さん。
- 【へ】 平準化、安定を求める人間心理のなせるわざ。
- 【う】 歌いましょう、踊りましょう、そーれ「会計音頭」。
- 【わ】 和解のため証拠資料となりうる会計帳簿って、本当ですか。
- 【も】 もっと自由に、応用の効く会計工学を始めましょう。
- 【す】 数学の教科書に簿記の原理を書いたパチオリさん。
- 【む】 昔は紙の時代、上下左右に限界があり複式簿記を生み出しました。
- 【ふ】 複式簿記も腹式呼吸も健康維持の要で、医者いらす。

これらの文章には日常会話ではなかなか出てこない会計用語や、使うことがあったとしても難しい意味を持った単語が含まれている。「な」の「どんぶり勘定」はある意味よく知られた言葉だが、このような使われ方をすると、イメージをすることは難しかったのかもしれない。「む」

についても、「複式簿記」はよく聞く単語であると思われるが、その構造や歴史的背景まで捉えることはあまりないとすれば、イメージが困難であったのではないと思われる。「う」の「会計音頭」は、実在する音頭ではないので、イメージすることは困難であったのだろう。

以上の回答数の多かった文章（図表2）と回答数の少なかった文章（図表3）を今後の比較の基準として、属性別の傾向が全体集計の傾向をどのような差異があるかを見ていきたい。なお、図表2と図表3の下に示した推測はあくまで推測であるので、参考程度にご覧いただきたい。他の個所のコメントも同様の性格を有している。

## （2）高校生の回答の特徴

高校生の集団で回答数の多かった文章は、「き」「か」「ん」「お」「た」「え」「を」「し」「ね」「い」である。全体との相違はない。

回答数の少なかった文章は、「な」「へ」「ち」「は」「も」「す」「わ」「む」「せ」「う」で、全体集計の結果と異なる点として「せ」がある。

「せ」世界は自分を中心に回ると仮定している会計主体。

高校生にとって「会計主体」の意味が理解できなかったのかもしれない。

## （3）大学生の回答の特徴

大学生（といっても簿記会計の未修者）については詳しく分析しないが、大学生（未修者）集団の特徴だけは押さえておこう。

回答数の多かったのは、「き」「た」「ね」「し」「え」「お」「よ」「や」「り」「か」であり、全体と異なる点は以下の3点である。

「よ」要求のかたまりの国家予算、100兆円時代に入ります。

「や」役に立つ情報、それは意思決定を左右する内容を含むもの。

「り」利益なんてどこにも落ちていないから売り上げが目標なのさ。

これら3点については専門性が低く、メディア等を通じて知る機会も多いと思われる。それゆえ、未修者でもイメージしやすかったのではないと思われる。

回答数の少なかったのは、「れ」「う」「さ」「ち」「む」「そ」「は」「わ」「も」「な」であり、全体と異なる点は以下の3点である。

「れ」連結会計は子会社設立の意図を帳消しにするかもしれません。

「さ」財務諸表とは経営者が描いた社会交流の図なのかな。

「そ」損益分岐点を知らないで利益を上げ続ける剛腕経営者。

連結会計、財務諸表、損益分岐点といった専門用語についてのイメージが難しかったのかもしれない。回答の多かった文章と回答の少なかった文章を見ると「未修者」の特徴がよく表れている。

#### (4) 教員の回答の特徴

教員の集団（ただし全員が簿記会計の教員かどうかは不明）で回答の多かった文章は、「お」「き」「あ」「ゆ」「ね」「そ」「ま」「さ」「い」「を」である。また、全体と異なる点が多いのが特徴である。

「あ」 アカウンタビリティ、説明して終わりじゃないんだよ。

「ゆ」 有価証券って企業それ自体を商品化しているってことなのね。

「そ」 損益分岐点を知らないで利益を上げ続ける剛腕経営者。

「ま」 まちがいは観点に修正できちゃう複式簿記。

「さ」 財務諸表とは経営者が描いた社会交流の図なのかな。

回答者全体では回答数上位に入らなかった文章ではあるが、よく理解していないとイメージできない文章でもあるので、教員の集団で回答が多かったことは納得できる。

反対に、回答数の少なかったのは、「は」「う」「わ」「り」「ち」「も」「ら」「な」「す」「ふ」で、全体と異なる点は以下の2点である。

「り」 利益なんてどこにも落ちていないから売り上げが目標なのさ。

「ら」 ランダムに変化する市場における会社の値段の不思議。

教員もこれら文章の意味まではイメージできなかったらしい。

#### (5) O校の回答の特徴

ここでは生徒と教員を含めて、学校の特徴が見えるかどうか確認してみた。

O校で回答が多かったのは、「き」「お」「た」「か」「え」「ん」「ね」「し」「を」「い」「ゆ」であり、全体と異なる点は次の1点であった。

「ゆ」 有価証券って企業それ自体を商品化しているってことなのね。

反対に、回答の少なかったのは、「な」「へ」「は」「も」「ち」「わ」「う」「む」「す」「る」「ら」「ほ」「ふ」であり、全体と異なる点は3点あった。

「る」 ルールベースって楽なのよ、考えなくてもいいからね。

「ら」 ランダムに変化する市場における会社の値段の不思議。

「ほ」 報告利益に関心が集中する株式市場、それに対応する経営者。

#### (6) K校の回答の特徴

K校で回答の多かったのは「き」「を」「ん」「お」「か」「ゆ」「そ」「ま」「し」「と」「た」であり、全体と異なる点は4点あった。

「ゆ」 有価証券って企業それ自体を商品化しているってことなのね。

「そ」 損益分岐点を知らないで利益を上げ続ける剛腕経営者。

「ま」 間違いは簡単に修正できちゃう複式簿記。

「と」投資者のために計算しているかもしれない企業価値。

反対に回答の少なかったのは、「な」「ぬ」「ひ」「は」「ち」「へ」「す」「わ」「う」「せ」「て」「あ」であり、全体と異なる点も多かった。

「ぬ」ぬくもり感じる「暖かいディスクロージャー」が求められています。

「ひ」秀吉さん、五代さんが計算好きの大阪人を作ったか。

「せ」世界は自分を中心に回ると仮定している会計主体。

「て」ディスクロージャー、白状しろとは違うのです。

「あ」アカウントビリティ、説明して終わりじゃないんだよ。

### （7）O校とK校の比較

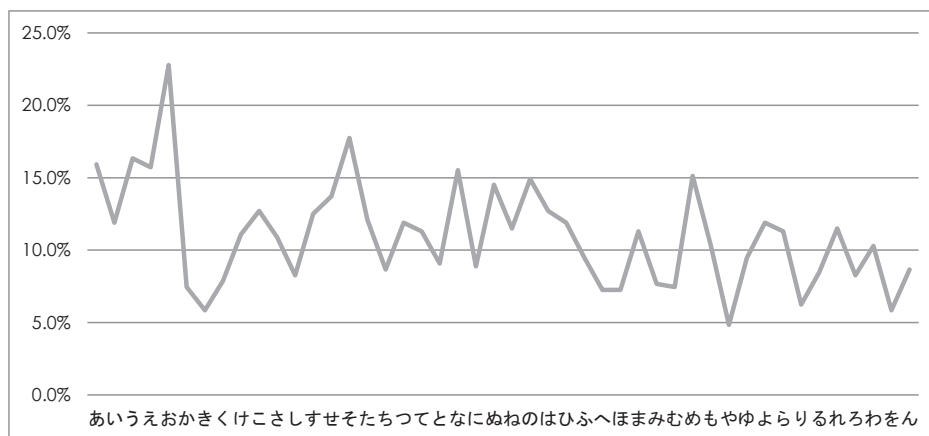
回答の多かった文章で「ゆ」が共通している。この文章はやや高度かとも思われるが高校生がイメージできるという。回答の少なかった文章については共通性がない。これらは教室で話されていない内容の差を反映していると思われる。両校に共通して言えることは、比喩的な表現については、イメージすることが困難であったのではないかと思われる。ただし、これまでの分析では、全体集計の傾向と異なる点を強調しているが、その相違点が属性の特徴を決定しているわけではないので注意が必要である。あくまで、図表2と図表3と照合しながら特徴をあぶりだす必要がある。

## 3 質問2の分析

質問2は質問1と同じ会計かるたの文章を対象としているが、更なる説明を望むかどうかを問う質問である。

### （1）全体の回答の特徴

図表4 質問2で会計かるたの文章ごとに見た回答の頻度



質問2に関する全体集団における回答で多かった文章は「お」「そ」「う」「あ」「え」「な」「め」「の」「ぬ」「せ」であった。

図表5 質問2で回答数の多かった文章 (の記号)

- 【お】 お寿司屋さん、気になるな、時価っていくらなの。
- 【そ】 損益分岐点を知らないで利益を上げ続ける剛腕経営者。
- 【う】 歌いましょう、踊りましょう、そーれ「会計音頭」。
- 【あ】 アカウンタビリティ、説明して終わりじゃないんだよ。
- 【え】 エーアイがづらい仕事をしてくれるって夢なのかな。
- 【な】 なかまで見える井で危機意識を高めるどんぶり勘定。
- 【め】 メモまでデータ化できる未来会計が始まってます。
- 【の】 ノウハウだから教えられぬ、門外不出の管理会計。
- 【ぬ】 ぬくもり感じる「暖かいディスクロージャー」が求められてます。
- 【せ】 世界は自分を中心に回ると仮定している会計主体。

最近のICTの変化も含めて、日常生活で聞くことがあるが、正確な使い方について、より詳しく聞きたいと思われる文章が選ばれているのかもしれない。アカウンタビリティ、ディスクロージャー、時価、損益分岐点、管理会計が教科書的な説明を超えて使われている。またエーアイ(AI)、未来会計、どんぶり勘定は経営実践と絡んでいる。そうした教科書的な説明ではわかりにくい文章に関心が高かったのかもしれない。

反対に回答の少なかった文章は「や」「き」「を」「る」「へ」「ほ」「か」「む」「み」「く」であった。

図表6 質問2で回答の少なかった文章 (の記号)

- 【や】 役に立つ情報、それは意思決定を左右する内容を含むもの。
- 【き】 記憶に限界あり、だから記録が重要になるのです。
- 【を】 をっと大変、貸借合わない、アンバランスシートだよ。
- 【る】 ルールベースって楽なのよ、考えなくてもいいからね。
- 【へ】 平準化、安定を求める人間心理のなせるわざ。
- 【ほ】 報告利益に関心が集中する株式市場、それに対応する経営者。
- 【か】 借方の向こうに借手、貸方の向こうに貸手がいるんだよ。
- 【む】 昔は紙の時代、上下左右に限界があり複式簿記を生み出しました。
- 【み】 みんなの利益を追求する公会計、わたしの利益を追求する私会計。
- 【く】 具体的な資産を資本という経済学者さん。

よく知っている事柄、全く想像がつかない事柄などはもっと詳しく聞きたいと思わないだろうと推定されるが、なぜ選ばれなかったのかの理由まで推定できない。



## （2）高校生の回答の特徴

高校生にとって回答の多かった文章は「お」「う」「え」「め」「そ」「な」「ひ」「す」「あ」「ぬ」であり、全体と異なる点は以下の3点であった。

「ひ」秀吉さん、五代さんが計算好きの大阪人を作ったか。

「す」数学の教科書に簿記の原理を書いたパチオリさん。

「ぬ」ぬくもり感じる「暖かいディスクロージャー」が求められています。

普段授業では聞きなれない事柄なのだろう。会計の歴史、背景、活用方法について興味を持っているのではないか。

反対に、回答の少なかった文章は「を」「や」「か」「ほ」「る」「き」「さ」「む」「り」「へ」であり、全体と異なる点は以下の2点であった。

「さ」財務諸表とは経営者が描いた社会交流の図なのかな。

「り」利益なんてどこにも落ちてないから売り上げが目標なのさ。

選ばれた回答と比べて関心をひかない理由までわからないが、追加的な説明は不要ということだろうか。

## （3）大学生の回答の特徴

大学生で回答の多かった文章は「お」「そ」「な」「は」「あ」「さ」「せ」「の」「け」「こ」「ぬ」であり、全体と異なる点は以下の4点である。

「は」破壊的イノベーションをどう会計で表現しようか。

「さ」財務諸表とは経営者が描いた社会交流の図なのかな。

「け」決算は経営者の責任を解除する儀式です。

「こ」コンピュータの記憶装置、左も右もないみたい。

大学生といっても未修者であることを考えると、会計というものへの興味の萌芽かもしれない。

反対に回答の少なかった文章は、「や」「き」「く」「し」「ひ」「り」「へ」「み」「を」「ほ」「い」「む」「ら」であり、全体と異なる点は以下の5点となった。

「し」事実を記録するいずれ記録が事実になります。

「ひ」秀吉さん、五代さんが計算好きの大阪人を作ったか。

「り」利益なんてどこにも落ちていないから売り上げが目標なのさ。

「い」イタリアで複式簿記が生まれたってほんとに本当なの。

「ら」ランダムに変化する市場における会社の値段の不思議。

やはり未修者らしい回答かと思われる。

## （4）教員の回答の特徴

教員の回答は、全体と比べても、高校生や大学生と比べても大きく異なることが分かった。

まず、回答の多かった文章は「の」「あ」「さ」「そ」「れ」「せ」「ま」「て」「も」「い」「く」「ぬ」「ふ」であるが、全体と異なる点が8つもあり、教員集団は関心が異なる集団といえる。

「さ」財務諸表とは経営者が描いた社会交流の図なのかな。

「れ」連結会計は子会社設立の意図を帳消しにするかもしれません。

「ま」まちがいは簡単に修正できちゃう複式簿記。

「て」ディスクロージャー、白状しろとは違うのです。

「も」もっと自由に、応用の効く会計工学を始めましょう。

「い」イタリアで複式簿記が生まれたってほんとに本当なの。

「く」具体的な資産を資本という会計学者さん。

「ふ」複式簿記も腹式呼吸も健康維持の要で、医者いらず。

反対に回答の少なかった文章は「り」「ろ」「ん」「き」「こ」「つ」「ね」「ひ」「や」「よ」「わ」であり、全体と大きく異なる。

「り」利益なんてどこにも落ちていないから売り上げが目標なのさ。

「ろ」論理づくし、複式簿記に肌が合う人と合わない人。

「ん」ん、うん、精算表の2つの利益が合えば大満足なんだよ。

「つ」つかんだ札束どこに消えたか危機意識のないどんぶり勘定。

「ね」ネットにデータを蓄積する現代、オープンすぎませんか。

「ひ」秀吉さん、五代さんが計算好きの大阪人を作ったか。

「よ」要求のかたまりの国家予算、100兆円時代に入ります。

「わ」和解のため証拠資料となりうる会計帳簿って、本当ですか。

したがって教員集団については、全体の傾向とは別に独自にその傾向を把握したほうが良いであろう。また、教員集団の傾向が学習者の傾向と大きく異なることは注目に値する<sup>4)</sup>。

### (5) O校の回答の特徴

O校(生徒+教員)の回答で多かったのは「お」「え」「う」「そ」「た」「あ」「め」「な」「ひ」「ぬ」であり、全体と異なるのは2点であった。

「た」単なるデータといわれますが、データの時代だよ。

「ひ」秀吉さん、五代さんが計算好きの大阪人を作ったか。

反対に回答が少なかったのは「や」「り」「ち」「ほ」「む」「み」「る」「ろ」「と」「へ」「を」であり、全体と異なる点は4点であった。

「り」利益なんてどこにも落ちてないから売り上げが目標になるのさ。

「ち」抽象的な維持拘束額を資本という会計学者さん。

4) 柴健次 [2016] 第5巻第2章において「高校生の会計教育に関する意識調査」を紹介している。強引かもしれないが「教員の思いが生徒に伝わらない現実」を確認している。

「ろ」論理づくし、複式簿記に肌が合う人、合わない人。

「と」投資者のために計算しているかもしれない企業価値。

#### （6）K校の回答の特徴

K校（生徒+教員）で回答の多かったのは「の」「お」「そ」「て」「な」「う」「ぬ」「あ」「つ」「め」であり、全体と異なる点は以下の2点であった。

「て」ティスクロージャー、白状しろとは違うのです。

「つ」つかんだ札束どこへ消えたか危機意識のないどんぶり勘定。

反対に回答の少なかったのは「き」「を」「た」「ん」「か」「し」「や」「る」「え」「へ」「り」であり、全体と異なる点が4点あった。

「た」単なるデータといわれますが、データの時代だよ。

「ん」ん、うん、精算表の2つの利益が合えば大満足なんだよ。

「え」エーアイがづらい仕事をしてくれるって夢なのかな。

「り」利益なんてどこにも落ちていないから売り上げが目標なのさ。

#### （7）O校とK校の回答の比較

回答の多かった文章のうち全体と異なるのは2つ。少なかった文章のうち全体と異なるのは4つと、数の上ではかい離数は同じであった。また説明を欲しない文章のうち「り」だけが一致していた。両校とも全体の傾向に近いといえる。つまり、単純集計で見ると、O校とK校に大きな差異は見出しがたい。

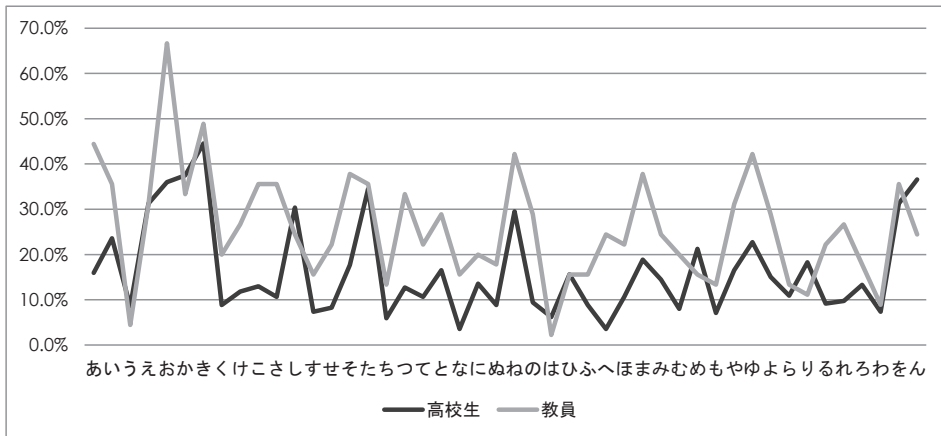
## 4 属性間にわたる比較

本節では第2節・第3節で確認した単純集計結果に基づいて、いくつかの属性間比較を試みた。

#### （1）高校生と教員の質問1の回答の相違点

高校生集団と教員集団で回答に傾向的な相違点があるかどうか我々にとっての関心の一つであった。

図表7 高校生と教員の質問1の回答の相違点



グラフから分るように教員がイメージ可能な文章は概ね高校生のそれを上回っている。人生の経験の差であろう。しかしながら、逆に高校生が教員の回答を上回っている文書は、「ん」「り」「し」「め」「か」「う」「は」「え」「ひ」と9つある。

「ん」ん、うん、精算表の2つの利益が合えば大満足なんだよ。

「り」利益なんてどこにも落ちてないから売り上げが目標なのさ。

「し」事実を記録するといずれ記録が事実になります。

「め」メモまでデータ化できる未来会計が始まっています。

「か」借方の向こうに借手、貸方の向こうに貸手がいるんだよ。

「う」歌いましょう、踊りましょう、そーれ「会計音頭」。

「は」破壊的イノベーションをどう会計で表現しようか。

「え」エアイがづらい仕事をしてくれるって夢なのかな。

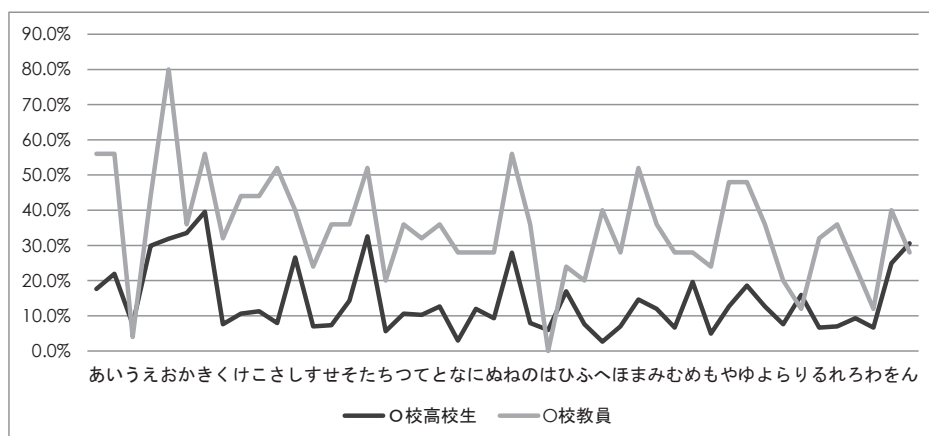
「ひ」秀吉さん、五代さんが計算好きの大阪人を作ったか。

経験の少ない高校生がイメージした率が教員のそれよりも高い項目が9つもあること自体、興味深い。それ以上に、高校生が、未来会計、破壊的イノベーション、エアイなど昨今の話題をイメージできる傾向が教員より高いということは注目に値する。

## (2) O校における高校生と教員の質問1の回答の相違点

前項で見た高校生と教員の回答の相違点を高校別に確認してみたい。

図表8 O校における高校生と教員の質問1の回答の相違点



イメージできる文章それぞれにおいて教員の割合が高校生の割合を上回っていることがわかる。反対に高校生が教員を上回っている文章は、「は」「り」「う」「ん」の4つである。

「は」破壊的イノベーションをどう会計で表現しようか。

「り」利益なんてどこにも落ちてないから売り上げが目標なのさ。

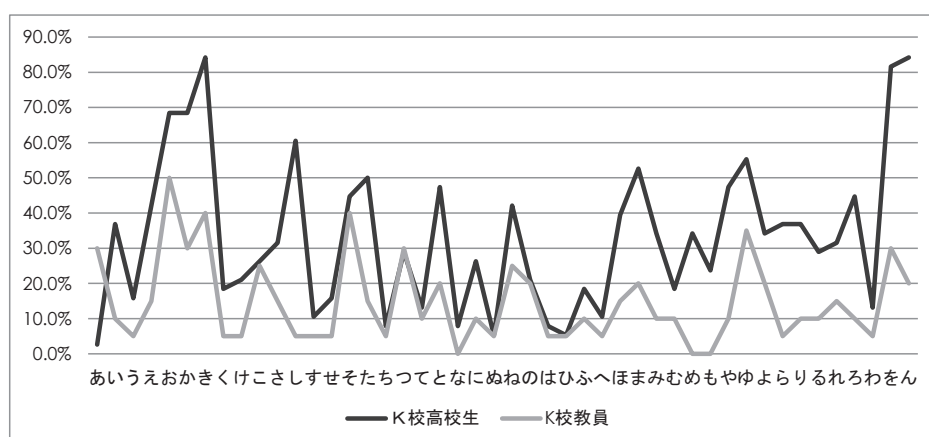
「う」歌いましょう、踊りましょう、そーれ「会計音頭」。

「ん」ん、うん、精算表の2つの利益が合えば大満足なんだよ。

これら4項目で逆転しているものの、差異が小さいので、これを持って高校生の特徴を語ることは難しい。

### (3) K校における高校生と教員の質問1の回答の相違点

図表9 K校における高校生と教員の質問1の回答の相違点



O校とは逆に、K校では、イメージできる文章それぞれにおいて高校生の割合が教員の割合を上回っていることがわかる。教員が高校生を上回っている文字は、「あ」「つ」の2つだけである。

「あ」アカウントビリティ、説明して終わりじゃないんだよ。

「つ」つかんだ札束どこへ消えたか危機意識のないどんぶり勘定。

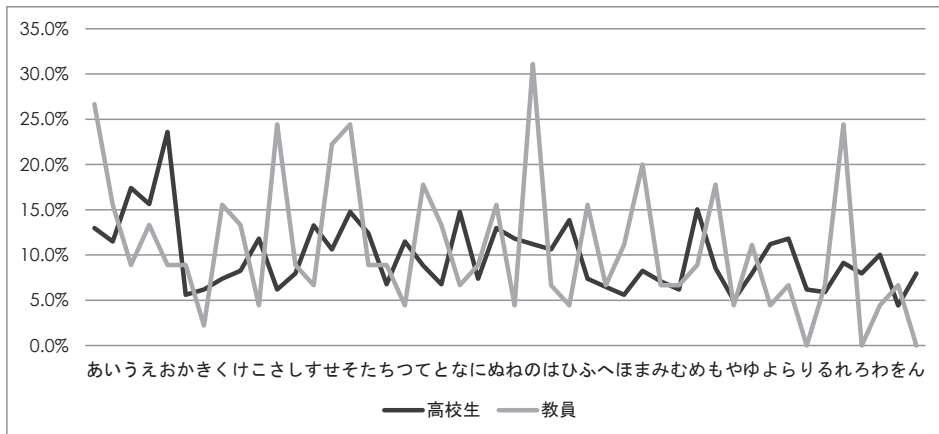
なぜK校においてこのような逆転現象が起きたのか興味は尽きない。高校生が気楽にイメージできると答えたのに、教員は厳格に考えイメージできると答えなかったといった推定もありうるかもしれないが、よくはわからない。しかし、O校とK校では何か違うといえる。この調査では知りえない相違を確認する必要がある。

すなわち、O校とK校の生徒と教員を含めた学校全体の特徴としては、単純集計を見る限り差がないということを手で確認している。それに対して、生徒と教員を分けて学校の特徴を見ると、O校とK校は非常に異なると言える。特にK校は生徒のイメージ力が教員のそれを超えている。

#### (4) 高校生と教員の質問2の回答の相違点

つぎに質問2についてもいくつか属性間比較を試してみる。

図表10 高校生と教員の質問2の回答の相違点



高校生がもっと知りたいと思う文章は「お」「う」「え」「め」「そ」「な」「ひ」「す」「あ」「ぬ」であり、教員がもっと知りたいと思う文章は「の」「あ」「さ」「そ」「れ」「せ」「ま」「て」「も」「い」「く」「ぬ」「ふ」であった。共通していたのは、「あ」「そ」「ぬ」の3個だけであった。共通項を除く項目に含まれるキーワードを並べてみる。

高校生：時価、会計温度、エーアイ、未来会計、どんぶり勘定、秀吉さん、パチオリさん

教員：管理会計、財務諸表、連結会計、会計主体、複式簿記、ディスクロージャー、会計工学、複式簿記、資本、複式簿記

一見して分かる通り、教員は教授項目につきより深く知りたいと答えているのに対して、高校生は最近の話題や歴史に関して関心が高いということが確認できた。

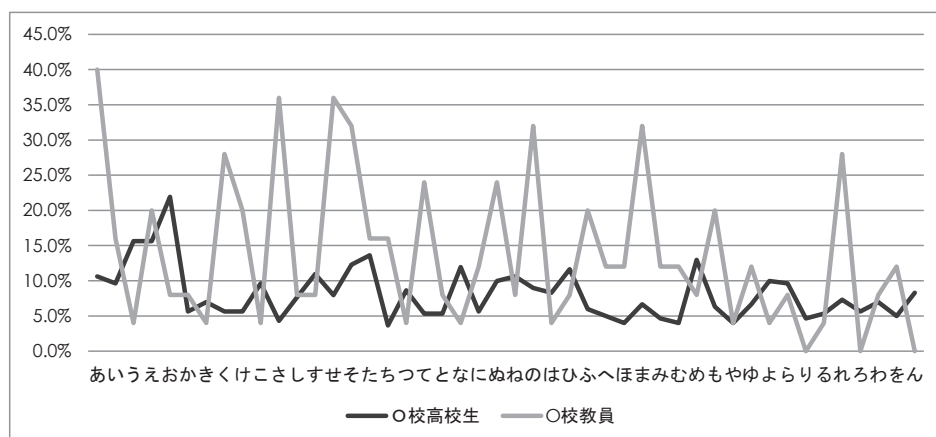
### （5）〇校における高校生と教員の質問2の回答の相違点

質問1の図表8と類似の傾向がここでも確認できる。ただ、高校生の回答率が教員の回答率を上回っている項目が17項目もある点ですこし様子が違う。しかも、10%以上の開きがあるものが2項目（「お」「う」）ある

「お」お寿司屋さん、気になるな、時価っていくらなの。

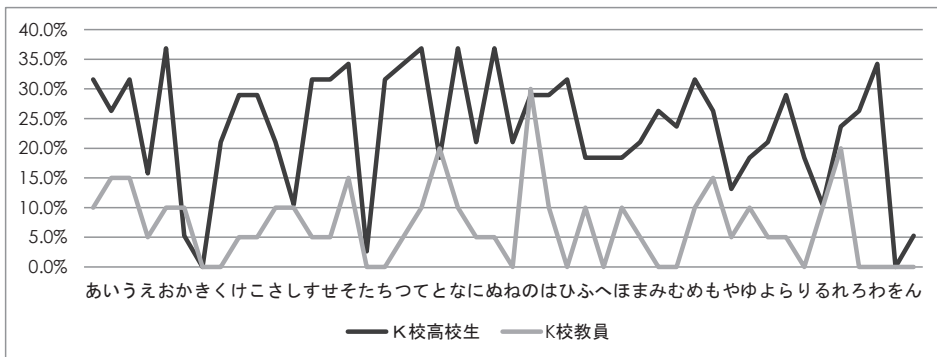
「う」歌いましょう、踊りましょう、そーれ「会計音頭」。

図表11 〇校における高校生と教員の質問2の回答の相違点



## (6) K校における高校生と教員の質問2の回答の相違点

図表12 K校における高校生と教員の質問2の回答の相違点



教員の回答率が生徒のそれを上回っているのが、「か」「と」「の」の3つだけである。しかし、差は小さいので、教員の独自性については何とも言えない。

むしろ、興味あるのは、質問1の図表9と類似の傾向を読み取れる点である。O校にと比べて、K校では追加的説明を求めるのはやはり生徒である。我々の調査ではこうした傾向の原因を特定できる材料はない。しかし、属性間比較から見る限り、質問1も質問2も、O校は教員が生徒よりも積極的で、K校では生徒が教員より積極的であるといえそうだ。

## おわりに

会計かるたの文章は綿密な計画に基づく文章ではない。しかし、ある程度会計に関する知識がなければ理解が及ばないものも含んでいる。

その会計かるたという素材を利用して簡単なアンケートを実施した。社会調査の常識を逸脱していることは承知の上である。それにも関わらず回収した回答が何かを物語っているのではないかと考えた。

アンケートでは大学生からの回答を得ている。しかし、簿記会計への関心が低いかもしれないので、属性間比較からは外した。また、実際には第3の協力校S校があったが、回答の用紙の修正の痕跡から見て統一的意思を感じられたため分析の対象から外した。

協力いただいたO校とK校は関西の商業高校である。その教育方針等に差異はないかを探りたいという意識があった。結論からいえば、単純集計からいえば両校は類似性を有している。しかし、学校別の属性間比較を見ると、両校では教員の意識が大きく異なる。ここに追加的な調査の必要性を感じる。

大学生は参考のためと位置付けたが、初学者集団としてみれば、そのデータは有効である。彼らはメディアでなじみのある用語には親近感を有するが、会計の専門用語となると反応が薄



い。初学者の典型的反応ではないかと思う。

以上の前提で、いくつもの発見事項があった。これしかないというわけでもない「会計かるた」の文章に対してでさえ、回答者の属性別に特徴が見出された。これは当たり前のことだと思う。しかし、発見事項を丹念に見れば、会計リテラシー研究の今後に示唆を与えると信じている。

アンケート調査の常識から外れるかも入れないが、回答されなかった項目（ゼロ回答項目）の特性も分析できると考えた。これはある意味、潜在意識の分析である。しかし、論理的の説得力ある結果が得られないので今後の課題とした。

以上が主な結論である。

#### 参考文献

- 柴健次編著 [2016] 『科学研究費最終報告書 会計リテラシーの普及と定着に関する総合的研究』非売品、1-1331頁、2016年3月。関連13分冊は以下で公開中。  
<https://www.dropbox.com/home/KAKEN%2025245057%20Accounting%20Education>
- 柴健次 [2017] 「簿記会計教育における生徒と教員の認識のギャップ」『じっしょう商業教育資料』No.106、6-9、実教出版、2017年5月28日。

## 質問1の回答数

	○校 高校生	K校 高校生	高校生	大学生	○校教員	K校教員	教員	総計
あ	53	1	54	18	14	6	20	92
い	66	14	80	18	14	2	16	114
う	23	6	29	6	1	1	2	37
え	90	16	106	52	11	3	14	172
お	96	26	122	52	20	10	30	204
か	101	26	127	33	9	6	15	175
き	119	32	151	65	14	8	22	238
く	23	7	30	28	8	1	9	67
け	32	8	40	17	11	1	12	69
こ	34	10	44	26	11	5	16	86
さ	24	12	36	6	13	3	16	58
し	80	23	103	52	10	1	11	166
す	21	4	25	9	6	1	7	41
せ	22	6	28	13	9	1	10	51
そ	43	17	60	7	9	8	17	84
た	98	19	117	58	13	3	16	191
ち	17	3	20	7	5	1	6	33
つ	32	11	43	26	9	6	15	84
て	31	5	36	19	8	2	10	65
と	38	18	56	19	9	4	13	88
な	9	3	12	8	7	0	7	27
に	36	10	46	22	7	2	9	77
ぬ	28	2	30	16	7	1	8	54
ね	84	16	100	57	14	5	19	176
の	24	8	32	14	9	4	13	59
は	18	3	21	8	0	1	1	30
ひ	51	2	53	12	6	1	7	72
ふ	23	7	30	12	5	2	7	49
へ	8	4	12	13	10	1	11	36
ほ	21	15	36	16	7	3	10	62
ま	44	20	64	12	13	4	17	93
み	36	13	49	20	9	2	11	80
む	20	7	27	7	7	2	9	43
め	59	13	72	20	7	0	7	99
も	15	9	24	8	6	0	6	38
や	38	18	56	37	12	2	14	107
ゆ	56	21	77	17	12	7	19	113
よ	38	13	51	39	9	4	13	103
ら	23	14	37	21	5	1	6	64
り	48	14	62	36	3	2	5	103
る	20	11	31	14	8	2	10	55
れ	21	12	33	5	9	3	12	50
ろ	28	17	45	10	6	2	8	63
わ	20	5	25	8	3	1	4	37
を	75	31	106	20	10	6	16	142
ん	92	32	124	19	7	4	11	154

## 質問2の回答数

	○校 高校生	K校 高校生	高校生	大学生	○校教員	K校教員	教員	総計
あ	32	12	44	23	10	2	12	79
い	29	10	39	13	4	3	7	59
う	47	12	59	18	1	3	4	81
え	47	6	53	19	5	1	6	78
お	66	14	80	29	2	2	4	113
か	17	2	19	14	2	2	4	37
き	21	0	21	7	1	0	1	29
く	17	8	25	7	7	0	7	39
け	17	11	28	21	5	1	6	55
こ	29	11	40	21	1	1	2	63
さ	13	8	21	22	9	2	11	54
し	23	4	27	10	2	2	4	41
す	33	12	45	14	2	1	3	62
せ	24	12	36	22	9	1	10	68
そ	37	13	50	27	8	3	11	88
た	41	1	42	14	4	0	4	60
ち	11	12	23	16	4	0	4	43
つ	26	13	39	18	1	1	2	59
て	16	14	30	18	6	2	8	56
と	16	7	23	16	2	4	6	45
な	36	14	50	24	1	2	3	77
に	17	8	25	15	3	1	4	44
ぬ	30	14	44	21	6	1	7	72
ね	32	8	40	15	2	0	2	57
の	27	11	38	22	8	6	14	74
は	25	11	36	24	1	2	3	63
ひ	35	12	47	10	2	0	2	59
ふ	18	7	25	15	5	2	7	47
へ	15	7	22	11	3	0	3	36
ほ	12	7	19	12	3	2	5	36
ま	20	8	28	19	8	1	9	56
み	14	10	24	11	3	0	3	38
む	12	9	21	13	3	0	3	37
め	39	12	51	20	2	2	4	75
も	19	10	29	14	5	3	8	51
や	12	5	17	5	1	1	2	24
ゆ	20	7	27	15	3	2	5	47
よ	30	8	38	19	1	1	2	59
ら	29	11	40	13	2	1	3	56
り	14	7	21	10	0	0	0	31
る	16	4	20	19	1	2	3	42
れ	22	9	31	15	7	4	11	57
ろ	17	10	27	14	0	0	0	41
わ	21	13	34	15	2	0	2	51
を	15	0	15	11	3	0	3	29
ん	25	2	27	16	0	0	0	43

## 会計かるた【大人編】

会計かるた【大人編】作：柴健次 2017年5月24日

- 【あ】 アカウタビリティ、説明して終わりじゃないんだよ。
- 【い】 イタリアで複式簿記が生まれたってほんとに本当なの。
- 【う】 歌いましょう、踊りましょう、そーれ「会計音頭」。
- 【え】 エーアイがづらい仕事をしてくれるって夢なのかな。
- 【お】 お寿司屋さん、気になるな、時価っていくらなの。
  
- 【か】 借方の向こうに借手、貸方の向こうに貸手がいるんだよ。。
- 【き】 記憶に限界あり、だから記録が重要になるのです。
- 【く】 具体的な資産を資本という経済学者さん。
- 【け】 決算は経営者の責任を解除する儀式です。
- 【こ】 コンピュータの記憶装置、左も右もないみたい。
  
- 【さ】 財務諸表とは経営者が描いた社会交流の図なのかな。
- 【し】 事実を記録するといずれ記録が事実になります。
- 【す】 数学の教科書に簿記の原理を書いたパチオリさん。
- 【せ】 世界は自分を中心に回ると仮定している会計主体。
- 【そ】 損益分岐点を知らないで利益を上げ続ける剛腕経営者。
  
- 【た】 単なるデータといわれるが、データの時代だよ。
- 【ち】 抽象的な維持拘束額を資本という会計学者さん。
- 【つ】 つかんだ札束どこへ消えたか危機意識のないどんぶり勘定。
- 【て】 ディスクローチャー、白状しろとは違うのです。
- 【と】 投資者のために計算しているかもしれない企業価値。
  
- 【な】 なかまで見える丼で危機意識を高めるとどんぶり勘定。
- 【に】 人間か労働力が私の価値、経営者の意識が決算書に表れます。
- 【ぬ】 ぬくもり感じる「暖かいディスクローチャー」が求められてます。
- 【ね】 ネットにデータを蓄積する現代、オープンすぎませんか。
- 【の】 ノウハウだから教えられぬ、門外不出の管理会計。
  
- 【は】 破壊的イノベーションをどう会計で表現しようか。

- 【ひ】 秀吉さん、五代さんが計算好きの大阪人を作ったか。
- 【ふ】 複式簿記も腹式呼吸も健康維持の要で、医者いらす。
- 【へ】 平準化、安定を求める人間心理のなせるわざ。
- 【ほ】 報告利益に関心が集中する株式市場、それに対応する経営者。
  
- 【ま】 まちがいは簡単に修正できちゃう複式簿記。
- 【み】 みんなの利益を追求する公会計、わたしの利益を追求する私会計。
- 【む】 昔は紙の時代、上下左右に限界があり複式簿記を生み出しました。
- 【め】 メモまでデータ化できる未来会計が始まってます。
- 【も】 もっと自由に、応用の効く会計工学を始めましょう。
  
- 【や】 役に立つ情報、それは意思決定を左右する内容を含むもの。
- 【ゆ】 有価証券って企業それ自体を商品化しているってことなのね。
- 【よ】 要求のかたまりの国家予算、100兆円時代に入ります。
  
- 【ら】 ランダムに変化する市場における会社の値段の不思議。
- 【り】 利益なんてどこにも落ちてないから売り上げが目標なのさ。
- 【る】 ルールベースって楽なのよ、考えなくてもいいからね。
- 【れ】 連結会計は子会社設立の意図を帳消しにするかもしれません。
- 【ろ】 論理づくし、複式簿記に肌が合う人と合わない人。
  
- 【わ】 和解のため証拠資料となりうる会計帳簿って、本当ですか。
- 【を】 をっと大変、貸借合わない、アンバランスシートだよ。
- 【ん】 ん、うん、精算表の2つの利益が合えば大満足なんだよ。

## 会計かるたに関する質問

会計かるた【大人編v2】作：柴健次 2017年6月1日

質問1 これらのうち、イメージがわいたものがあれば、「あ」から「ん」の文字を○で囲んでください。

あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ	た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も	や		ゆ		よ
ら	り	る	れ	ろ	わ		を		ん

質問2 これらのうち、詳しく聞きたいと思うものがあれば、「あ」から「ん」の文字を○で囲んでください。

あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ	た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も	や		ゆ		よ
ら	り	る	れ	ろ	わ		を		ん

質問3 これらのうち、最高傑作を決めるとすれば、あなたが推薦するのはどれですか。「あ」から「ん」の文字で上位3つをお答えください。

1位 ( )      2位 ( )      3位 ( )